

# 平成18年度 予算の概要

## 行革を進め予算総額は前年度比7・3%減に

梅谷馨市長は、施政方針に基づいて編成した平成18年度各会計予算案を、養父市議会に提案しました。

議会審議の結果、全予算案とも可決され、一般会計と特別会計、企業会計を合わせた予算総額は346億7438万円となりました。

平成18年度予算は、一般会計193億8000万円、特別会計146億1043万円、企業会計6億8395万円、総額346億7438万円、前年度と比べ27億1438万円の減額（前年度比7・3%減）となりました。

### 平成18年度 予算編成のポイント（一部抜粋）

#### ◎建設事業の抑制

八鹿病院建設など喫緊の行政課題に対応する事業費を除き、新規主要建設事業を凍結するなど行政改革大綱に沿って実施事業を抑制します。

#### ◎地方債残高の抑制と公債費負担の軽減

地方債（借金）発行額を抑

制し、全会計を合わせた残高を前年度比で5億円減らし、（0・7%減）また、地方債の繰り上げ償還を行い、公債費（借金の返済金）負担を軽減します。

#### ◎人件費の削減

①すべての一般職員を対象に、給与構造改革を導入した給料表に切り替えます。また、調整手当を廃止します。

②市長・助役・教育長の給料を、昨年度に引き続き1割カットします。また、調整手当を廃止します。

③管理職手当を昨年度に引き続き一部カットします。

- ・部長、課長 15% ↓ 12%
- ・課長 13% ↓ 10%
- ・副課長 10% ↓ 8%

#### ◎職員の削減

①一般職員の削減／退職者の補充を抑制し、一般職員数を削減します。また、中長期的視点にたった「定員管理計画」は「本庁と地域局のあり方の

見直し」を踏まえ策定します。  
②臨時・嘱託職員の削減／臨時事務補助職員数を抑制します。なお、地域局については「本庁と地域局のあり方の見直し」に合わせて平成18年度中に検討します。

#### ◎企業会計等の経営健全化

①上水道事業の経営改善／八鹿ダムからの取水を行わなくても対象区域の水需要がまかなえることから、同ダムを新規水源とする「水道水源開発施設整備事業」を中止します。また、上水道事業の経営安定化を図るため、平成18年度中に中期経営計画を策定します。

②下水道事業の経営改善／下水道事業に関する経理を明確にするため、関連する3会計を一本化します。また、浄化センターの統廃合に関する基本計画を作成します。  
③索道事業の経営改善／市営水ノ山国際スキー場の経営の専門性を高めるため、地元有識者や経営コンサルタント等を入れた経営委員会を設置するとともに、スキー場経営の知識や技術をもつ経営責任者の登用を検討します。

#### ◎経常的経費の削減

全会計で、徹底した経常的経費の削減を行いました。

### ～各会計予算額～

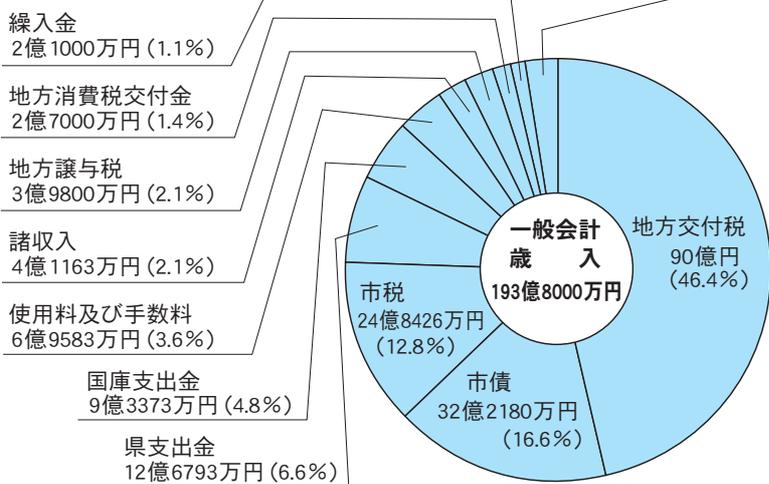
区分	予算額	
一般会計 ①	193億8000万円	
特別会計	国民健康保険特別会計	29億5370万円
	事業勸定	24億8200万円
	建屋診療所施設勸定	6340万円
	大屋診療所施設勸定	1億8170万円
	大屋歯科診療所施設勸定	4090万円
	出合診療所施設勸定	9520万円
	大谷診療所施設勸定	9050万円
	南谷診療所特別会計	9680万円
	養父歯科診療所特別会計	5110万円
	老人保健特別会計	42億8300万円
	介護保険特別会計	28億4200万円
	住宅新築資金等貸付事業特別会計	734万円
	土地取得特別会計	1249万円
	簡易水道事業特別会計	18億1400万円
下水道事業特別会計	25億5000万円	
小計 ②	146億1043万円	
企業会計	水道事業特別会計	3億6178万円
	水ノ山国際スキー場事業特別会計	1億9404万円
	農業共済事業特別会計	1億2813万円
	小計 ③	6億8395万円
合計 (①+②+③)	346億7438万円	

## 一般会計(歳入)

**市税負担は1人当たり  
8万4507円**

市に入る1年間のお金が歳入です。市民の皆さんに負担していただく市税は、対前年度比4・1%減の24億8426万円を見込んでいます。1人当たりで換算すると8万4507円(平成18年3月1日

その他	4億8682万円 (2.5%)	利子割交付金	2000万円
自動車取得税交付金	1億4500万円	配当割交付金	680万円
分担金及び負担金	1億2928万円	株式等譲渡所得割交付金	650万円
地方特例交付金	9950万円	交通安全対策交付金	628万円
繰越金	4000万円	寄附金	100万円
財産収入	3246万円		



( )内は構成比

現在人口で計算)を納めていただくこととなります。

市税や使用料など市独自の収入(自主財源)は40億446万円、歳入全体の20・7%にあたります。

これだけでは市の財政をまかなうことはできませんので、一定水準の行政サービスを提供するために、依存財源として国から交付される地方交付税、国県からの支出金、市債

(市の借金)などを加えて市政が運営されます。

歳入で最も多いのは地方交付税(国から交付されるお金)の90億円で、歳入全体の46・4%を占めています。次いで大きな割合を占めるのが、市債(借金)の32億2180万円(歳入全体の16・6%)で、国や県からの支出金は22億166万円(同11・4%)となっています。

歳入予算グラフをみると、国からの地方交付税や国・県からの支出金、市債などの収入(依存財源)の割合が大きいです。

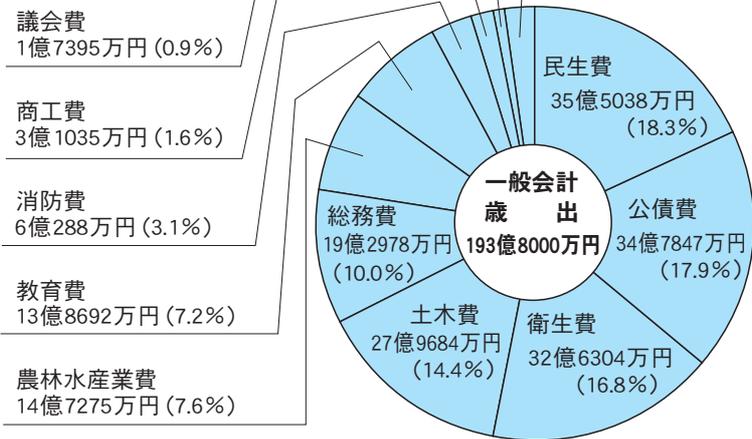
## 一般会計(歳出)

### 新規建設事業を抑制し 喫緊の課題に対応

市が1年間に使うお金が歳出です。一般会計の歳出を市民1人当たりで換算すると65万9251円(平成18年3月1日現在人口で計算)が使われることとなります。

歳出で最も多いのは、高齢者福祉や障害者福祉などに使われる民生費の35億5038万円、歳出全体の18・3%を占めます。次いで、市の借金

その他	4億1464万円 (2.2%)
災害復旧費	1億6948万円
労働費	1億5016万円
諸支出金	6500万円
予備費	3000万円



( )内は構成比

の返済金にあたる公債費の34億7847万円(歳出全体の17・9%)、ごみ収集や保健衛生事業、公立八鹿病院の建設負担金等を含む衛生費の32億6304万円(同16・8%)、私たちの生活に欠かせない市道や橋りょう等の整備に使われる土木費の27億9684万円(同14・4%)と続きます。また、教育費は統合大屋小学校や関宮・高柳小学校のプール

整備等が完了したため、昨年度比51・8%減の13億8692万円となりました。歳出を性質別にみると、最も多いのは普通建設事業費の37億1473万円、歳出全体の19・2%となっています。次いで公債費が34億7847万円、同17・9%、人件費が32億8484万円、同17・0%と続いています。

…………… 平成18年度に実施する主な事業 ……………

■第1の柱～安心～

(災害に強いまちづくり)

携帯電話エリア整備	1億5300万円
ハザードマップ作成(新)	1200万円
菟崎地区に防災ステーション整備(新)	1400万円
市営住宅に簡易型火災報知器設置(新)	336万円
緊急防災林整備(新)	9730万円
(安心に暮らせるまちづくり)	
救助工作車の購入(新)	8200万円
防火水槽整備(4基新設)	1800万円
学校等に自動体外式除細動器を配置(新)	278万円
(健康に暮らせるまちづくり)	
八鹿病院建設負担	12億4730万円
健康診査等予防事業	1億723万円
(安心して子育てができ高齢者・障害者等を地域で支えるまちづくり)	
児童手当の拡充	1億8380万円
学童保育の新設(高柳・八鹿)	2342万円
地域包括支援センターの開設(新)	4069万円
火葬場施設整備調査(新)	5031万円
生活保護措置	3億4664万円

■第2の柱～活力～

(自然活用型の産業を大切にしまちづくり)

有害鳥獣防除用柵・檻設置補助	1500万円
地域農業再生対策(新・トラクター購入補助、ピニールハウス設置補助)	750万円
たい肥センター基本計画策定(新)	200万円

中山間地域総合整備事業	6471万円
県営中山間地域総合整備受託事業	7883万円
県営中山間地域総合整備事業負担金	6565万円
(交流型の産業を大切にしまちづくり)	
「道の駅ようか」整備(新)	1億5104万円
水ノ山自然学習歩道整備	1550万円
(商工業を高度化するまちづくり)	
まちづくり交付金事業(新・産業振興のための計画策定、仮称企業支援センター設置等)	1300万円
商工業者融資事業	300万円
(若者の健全育成・定住ができるまちづくり)	
八鹿・青浜中学校統合整備(新)	4000万円
遠距離通学助成	5668万円
トライやる・ウィーク	296万円
外国青年英語指導助手招致	1586万円
若者定住促進対策補助金	3000万円

■第3の柱～快活～

(地球環境にやさしいまちづくり)

ごみ収集車購入(新)	960万円
針葉樹林と広葉樹林の混交林整備(新)	4326万円
森林整備地域活動支援補助	4088万円
環境対策育林事業	1769万円
県単独補助治山事業(岩崎地区)	4119万円
(快適な生活ができるまちづくり)	
ふれあい交流施設整備(新・県畜産試験場但馬分場跡地に公園整備)	5000万円
養父市場「こいの川景画」親水公園整備	400万円

余部橋りょう架替負担金(新)	650万円
地方特定道路整備(夏梅工業団地線)	1億1100万円
臨時交付金道路整備(鶴縄線・高柳小佐線・八鹿朝倉線)	1億5826万円
まちづくり総合支援事業(葛畑大久保線)	2億1382万円
知見八鹿線道路改良事業	5億3526万円
市道整備(上野小山線他8路線)	1億3046万円
生活バス路線確保対策	5480万円
八千高原簡易水道整備	4億8014万円
大屋川水系簡易水道・浅野浄水場移転工事	
(北近畿豊岡自動車道関連)	4億1482万円
し尿収集車購入(新)	689万円

■第4の柱～生きがい・楽しみ・誇り～

(人権が尊重されるまちづくり)

男女共同参画事業	53万円
(生きがい・楽しみ・誇りのもてるまちづくり)	
のじぎく兵庫国体の開催	3245万円
養父市交流事業(明石市との交流)	100万円
ビバホールチェロコンクール推進事業	820万円
木彫フォークアートおあや事業	670万円
農村歌舞伎の支援	210万円
生涯学習の振興	2625万円
文化会館とホールの運営	5601万円
公民館費	6510万円
八木城址調査保存事業(新)	3710万円
埋蔵文化財調査	528万円

特別会計

9会計合わせて

146億1043万円

企業会計

3会計合わせて

6億8395万円

養父市には9つの特別会計があります。その内、主なものについて概要を紹介します。まず、病気や療養にかかる医療費を給付する国民健康保険特別会計は29億5370万円。前年度に比べ3・9%増となつています。高齢者へ医療費などを給付する老人保健特別会計は42億8300万円。前年度に比べ2・3%減です。

快適で住みやすい環境づくりを進める下水道事業特別会計は、平成18年度より既存の3会計を一本化し、25億5000万円としました。これらの予算を使って主に施設維持管理を行います。

また、簡易水道事業特別会計は18億1400万円を計上し、施設維持管理を行うとともに、浅野浄水場の移転工事や八千高原簡易水道・八千高原水道施設の整備を進めます。その他の特別会計を含めた総額は、前年度に比べ5億9917万円減額の総額146億1043万円となります。

企業会計は、独立採算制を原則とする企業的特徴の強い事業を行う場合に、地方公営企業法の規定の全部又は一部の適用を受けて設置する特別会計をいいます。

安全で安定した水の供給を行う水道事業特別会計は3億6178万円で、施設維持管理や使用料の徴収を行うとともに、中期経営計画の策定業務や大森浄水場の膜ろ過施設整備(施設調査設計業務)、他施設建設に伴う配水管の移設工事等を行います。

市営水ノ山国際スキー場の施設管理と運営を行う水ノ山国際スキー場事業特別会計は1億9404万円で、老朽化したリフト支索交換や登行リフト終点の監視所の改築を行います。

農作物、家畜の損害補償事業等を行う農業共済事業特別会計は1億2813万円です。企業会計の総額は、前年度に比べ8321万円減の6億8395万円となります。